

CSR報告書2016



株式会社ウチダ



トップメッセージ

Top Message



廃棄物適正処理の信頼性

廃棄物処理に関する信頼性を根底から覆す事件がまた起きてしまいました。今回の事件は対象廃棄物が食品であり、当社が主に扱う建設系の廃棄物とはカテゴリーが異なります。

しかしながら、同じ産廃処理事業を営む者の責務として、事件から得られる教訓に正面から向き合い、自らを更に律する糧にしていく覚悟が改めて求められている、と改めて強く感じさせる契機となる事件であったとも言えます。

株式会社ウチダは循環型社会の構築に寄与し続けます

一方、環境問題を考えるうえで、産業廃棄物処理業は特別な位置を占めていることについて、それに携わるものは常に考える必要があります。業の目的である適正処理を行い、再資源化を推進することは、環境保全活動そのものであるためです。

自然との共生、地域社会との調和を図ることが当社の責務であり、そのために、常にリサイクル技術の推進と研究開発と施設の充実を図ることを通じて、リサイクルによる資源の循環的な利用に加え、廃棄物の更なる適正処理に努めていく、そんなことをウチダは常に考えています。

資源循環型社会への貢献こそが私たちの使命です

株式会社ウチダは、1985年の創業以来今日に至るまで、【棄てない・埋めない・燃やさない】をキーワードに、廃棄物の100%再資源化を目指して処理を行っています。このため、当社は廃棄物処理施設を工業専用地域に設け、建築基準法第51条、廃棄物処理法第15条に対応させるだけでなく、破碎機をはじめとするほとんどの処理施設を自社で開発・製作するとともに、施設の維持管理も自ら徹底して行うことと併せて、常に環境負荷の少ない高品質な再資源化製品を提供できる体制を実現いたしました。

この仕組みは多くのユーザー様から高い評価をいただくとともに、製品も数多くご愛用いただいております、循環型社会の構築に大きく寄与しています。

更に、コンプライアンス（法令順守、compliance）、CSR（企業の社会的責任、corporate social responsibility）の考え方を企業経営に取り込み、ISO14001認証に基づく環境管理や、労働安全衛生管理、定期的な社員教育、さらには、排出事業者の皆様への関係法令等の情報伝達、ホームページによる情報公開等を積極的に行うことにより、排出事業者、地域の皆様から常に信頼され、愛される企業を目指しています。

株式会社ウチダ 代表取締役

内田 一三

目 次

Contents

会社概要	3
組織図	4
沿革	5
ハイライト	7
環境とのかかわり	10
地域・社会とのかかわり	19
お客様とのかかわり	20
社員とのつながり	22
第三者意見	24



馬も喜ぶウチダのオガコ
日本乗馬倶楽部の馬

会社概要

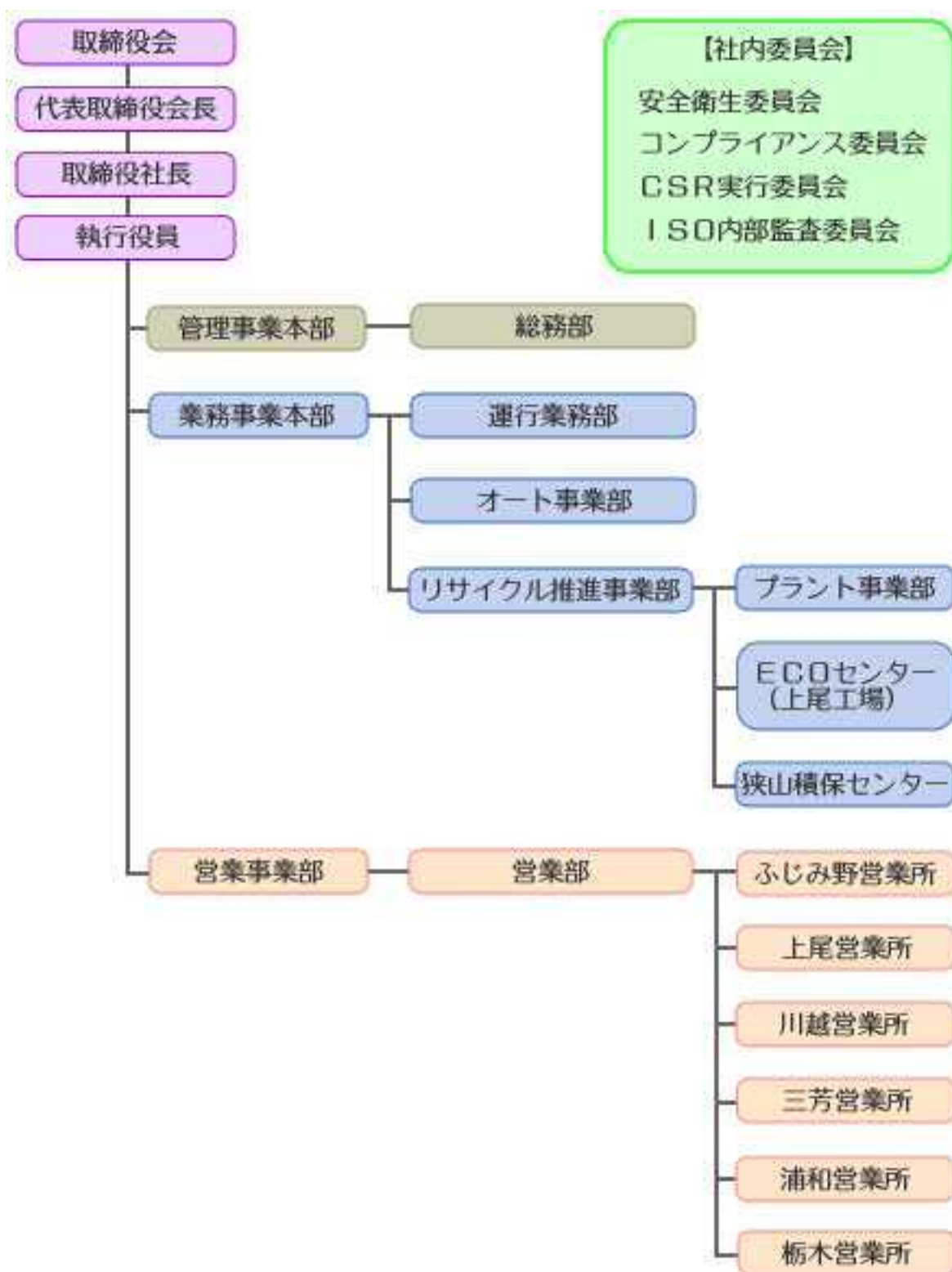
Company Guide



商 号	株式会社 ウチダ
資 本 金	5,000万円
会 社 設 立	1985年（昭和60年）2月20日
代 表 者 氏 名	代表取締役会長 内田 一二三
役 員	取締役社長 内田 千恵子 取締役 日野 弘幸 監査役 日野 佳乃与 COO執行役員 内田 朋美 執行役員 押尾 幸一
本 社	〒356-0034 埼玉県ふじみ野市駒林18番地 TEL：049-263-9777
ふじみ野営業所	〒356-0052 埼玉県ふじみ野市苗間1-6-10 TEL：049-293-1128 FAX：049-293-1126
浦和営業所	〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂4-7-11
川越営業所	〒350-1131 埼玉県川越市岸町二丁目18番4号
三芳営業所	〒354-0043 埼玉県入間郡三芳町竹間沢450-17-101
栃木営業所	〒329-3437 栃木県那須郡那須町大字簗沢527-2
狭山積保センター	〒350-1313 埼玉県狭山市上赤坂字妻恋ヶ原589番地1他 ＊塩化ビニル管・継手管協会指定受入拠点
上 尾 工 場	〒362-0066 埼玉県上尾市領家字中井1119-1（上尾領家工業団地内） TEL：048-782-0201（代） FAX：048-782-0204 ＊塩化ビニル管・継手管協会指定受入拠点、塩ビ管・継手リサイクル契約 中間処理会社
栃 木 工 場	〒329-1411 栃木県さくら市鷺宿字大久保2864-1 （建設中）（設置許可 第300-4号、第300-5号）
事 業 内 容	産業廃棄物収集運搬業 営業地域：関東一円 特別管理産業廃棄物収集運搬業 産業廃棄物処分業 産業廃棄物再生事業 一般廃棄物収集運搬業 一般建設業 埼玉県知事 許可(般-27)第51123号 土木工事業・とび・土工工事業・石工事業・鋼構造物工事業 舗装工事業・しゅんせつ工事業・水道施設工事業 リサイクル機器設計・製造・販売業 中古自動車販売業
従 業 員	70名（平成28年3月末現在）
主 要 取 引 銀 行	埼玉縣信用金庫（上福岡支店）・三菱東京UFJ銀行（新座志木支店） 三井住友銀行（上福岡支店）・武蔵野銀行（上尾支店）
加 盟 団 体	一般社団法人埼玉県環境産業振興協会 一般社団法人東京都産業廃棄物協会 公益社団法人栃木県産業廃棄物協会 一般社団法人廃棄物処理施設技術管理協会 塩化ビニル管・継手協会（賛助会員）

組織図

Organization system



1985.2

有限会社内田商事 設立（埼玉県上福岡市）

'87.
10

埼玉県を中心に**産業廃棄物収集運搬事業**を開始 順次営業エリア拡大
営業部設置（埼玉県狭山市）

'92.
6

埼玉県富士見市に営業本部を設置
（みずほ台営業所）
狭山営業所は狭山積保センターに

'94.
9

埼玉県知事より建設業許可取得

1995.5

「株式会社ウチダ」に社名変更
資本金を5000万円に増額

'97.
5

産業廃棄物中間処分量を開始
（埼玉県許可取得）

'98.
6

廃棄物再生事業者登録取得
（埼玉県）

'98.
12

計量証明事業登録取得（埼玉県）

'00.
4

廃棄物破碎処理機の
自社開発に着手

'04.
1

ISO14001 認証取得

'04.
1~

特別管理産業廃棄物収集運搬業を
開始

'04.
6

電子マニフェストシステム加入

'05.
1

一般貨物自動車運送事業
許可取得

'06.
12

更生保護事業への貢献が認められ、
さいたま保護観察所長より感謝状

'06.
1

緑のトラスト運動協力企業として
埼玉県知事より感謝状

'07.
3

上尾工場の保管施設を追加

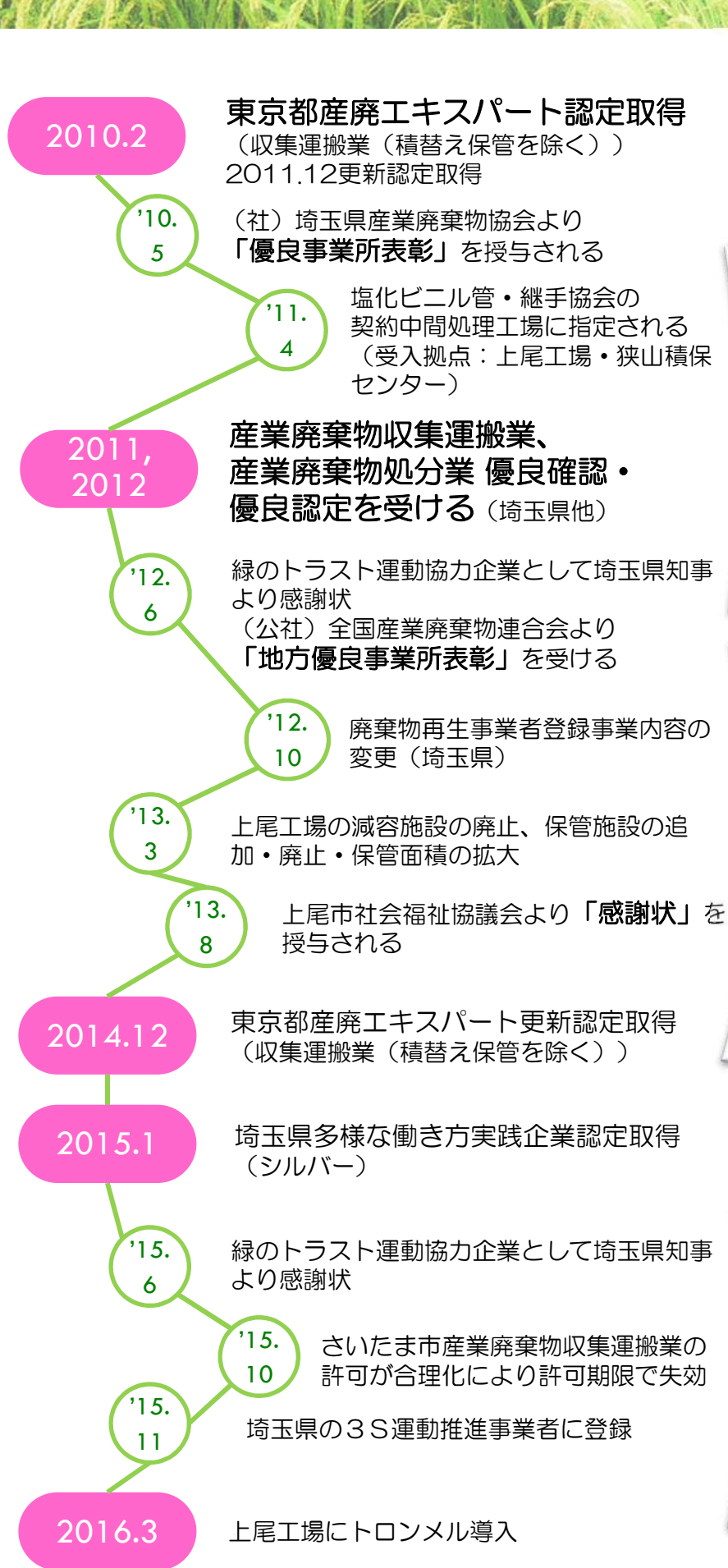
'07.
11

狭山積保センターで石綿含有産業廃棄物の
積替え保管可能に

2008.12

上尾工場拡張





Highlights

出庫/入庫

荷積 荷卸 休憩 待機

車内禁煙

[illegible]

A large red industrial machine, likely a concrete mixer or pump, is shown outdoors. It features a large, rotating drum with a hexagonal cross-section and a conveyor system extending from the drum. The machine is mounted on a sturdy metal frame. In the background, there is a large building with a corrugated metal facade and some trees.



7

埼玉県多様な働き方実践企業に認定されました

埼玉県では、女性の力で埼玉経済を元気にする「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」を進めており、その一環として、「多様な働き方実践企業」を認定し、女性がいきいき

と働き続けられる環境をつくり、従業員の仕事と子育て等の両立についての社会的気運の醸成を図っています。

株式会社ウチダも管理職（役員を含む）のうち女性が10%以上在籍していること等の認定基準を満たし、認定を受けました。

女性管理職の割合は増加し、現状33.3%となっています。



埼玉県
KOBATON



彩の国ビジネスアリーナ2016に出展



彩の国ビジネスアリーナ2016は、「技と技をつなぐ、彩の国埼玉技術の底力！」をスローガンに、中小企業の受注確保・販路開拓、技術力向上等を目的とし、広域的な企業間ネットワーク形成による新たなビジネスチャンス創出の場を提供する展示商談会です。

平成28年1月27日、28日に開催され、株式会社ウチダもリサイクルシステムとゼロ・エミッションへの具体的活動について出展させていただきました。

沢山の方にブースにご来場いただき、弊社の活動をPRさせていただきました。

緑のトラスト運動で感謝状を授与されました

緑のトラスト運動は、「埼玉の優れた自然や貴重な歴史的環境を、県民共有の財産として末永く保全していこう」という運動です。

株式会社ウチダは環境保全企業として、このような埼玉県の取組みに共感し、積極的に参加しております。

2015年も環境への貢献が認められ、上田清司埼玉県知事より感謝状を授与されました。



「ウチダ」の木くずリサイクル



畜産農家の言葉

肉牛団地

ウチダの生産する木くずの敷料（おがこ）は、皮膚に刺さらないので牛や豚がとても喜びます。

安心して寝そべることができるのでストレスが少なく、肉質の良い牛が育ちます。異物も全く混入していないので、人気が高く牧場間で取り合いをしているほどです。もっとたくさん供給するよう努力をお願いします。



農業生産者の言葉

キャベツ生産者

ウチダのおが粉を使った敷料に家畜ふんが混ざると、とてもバランスの良い堆肥ができます。他の堆肥と比べてキャベツの生育がとてよく、1.5倍ほどの大きさに育ち、味がとても良いため、ブランドキャベツとして全量百貨店に販売しています。百貨店でも人気の商品だそうです。



環境とのかかわり

廃棄物取り扱い実績（平成26年度・27年度実績）

廃棄物受入量（m ³ ）		
	平成26年度	平成27年度
がれき類	9,412	6,865
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	9,989	9,045
廃プラスチック類	23,300	18,678
金属くず	4,282	3,360
紙くず	14,519	12,300
木くず	19,737	15,082
繊維くず	92	14
ゴムくず	3	1
合計	81,334	65,345

選別
破砕
圧縮・梱包
圧縮

リサイクル量（t）		
	平成26年度	平成27年度
がれき類	10,051	7,869
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	9,186	8,050
廃プラスチック類	6,358	5,658
金属くず	3,801	3,256
紙くず	4,349	3,581
木くず	10,854	8,273
繊維くず	10	2
ゴムくず	1	0.1
混合残渣	—	240
合計	44,610	36,929

総量（t）		
	平成26年度	平成27年度
総量	52,425	41,524

最終処分量（t）		
	平成26年度	平成27年度
最終処分量	7,815	4,595

リサイクル率（平成26年度・27年度実績）

廃棄物の種類	リサイクル量（t）		用途	リサイクル率（%）	
	平成26年度	平成27年度		平成26年度	平成27年度
木くず	10,854	8,273	畜産資材（敷料）	100	100
紙くず	4,349	3,581	製紙原料	80	78
			熱原料・固形燃料原料	9	6
			畜産資材	10	13
繊維くず	10	2	畜産資材	73	81
			ダスタークロス原料	17	19
がれき類	10,051	7,869	再生砕石	72	77
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	9,186	8,050	再生砕石	80	80
			石膏原料	9	9
廃プラスチック類	6,358	5,658	農家資材	1	1
			熱原料	12	12
			プラスチック原料	65	74
金属くず	3,801	3,256	製造原料	78	86
ゴムくず	1	0.1	製造原料	93	100
混合残渣	—	240	熱原料（焼却・溶融）	—	4
合 計	44,610	36,929		87	89

環境とのかかわり

ISO14001の取り組み

株式会社ウチダでは、2004年1月30日、ISO14001認証を取得しました。

認証に基づき、企業活動によって生じる環境への負荷を、常に低減するよう配慮、改善を行っています。

登録概要

社名	株式会社ウチダ
適用規格	BS EN ISO 14001 : 2004
登録番号	AJA04/7152
登録年月日	2004年1月30日
再登録年月日	2009年2月11日 2012年2月11日 2015年2月11日
有効期限	2018年2月11日
登録範囲	廃棄物の収集運搬・処分、破砕機の製造・販売、中古自動車の購入・販売
登録事業所	本社、販売本部（ふじみ野営業所）、Eco. Amusement Park in AGEO



環境理念

株式会社ウチダは産業廃棄物処理業の一員として良質な社会資本の形成を通し、より豊かな生活を実現する為に重要な役割と責任を担っています。当社の行う事業は環境との係わりが深く、その事業活動の中で環境保全に取り組んで行くことは企業としての当然の責務でもあります。このような観点に立って当社は自らの事業活動における環境負荷の低減はもとより、よりよい環境の創造に努め人間にとって真に快適な環境創造の担い手として経済の発展と環境の保全とが持続的に共存する新しい社会の実現を目指します。

基本方針

当社は環境法規制等のもとより、当社が同意した環境に関する外部からの要求事項についてもこれを順守します。

当社は産業廃棄物処理事業活動において、公害防止や汚染予防に常に取り組んでおります。

省資源、省エネルギー、副産物のリサイクル等を含め、汚染回避・低減・管理に積極的に取り組み、環境負荷の低減を図ります。

環境目的・目標の設定・目標達成のための実施計画を策定・実施し、それらの見直しや是正・予防措置を通じ環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

この環境方針は当社内の全社員に周知するほか、社外に開示します。

株式会社ウチダ 代表取締役

内田 一三

環境とのかかわり

平成27年度活動実績・28年度活動目標

項 目	平成27年度		達成度	平成28年度 目標
	目標	実績		
省エネルギーへの取り組み				
ふじみ野事業所				
事業所へのパッシブソーラーハウスの導入（2008年）	維持	維持	○	維持
水道水浄化用浸透膜装置の導入（2008年）	維持	維持	○	維持
太陽光発電装置の導入（2008年）	1,600Kwhの売電	934Kwhの売電	△	1,600Kwhの売電
グリーン調達の推進	購入額の60%	購入額の77.5%	◎	購入額の80%
カーボンオフセット付名刺の導入	導入率20%	導入率33.8%	◎	導入率35%
上尾工場				
エコドライブの徹底	5.1Km/L	4.9Km/L	△	5.1Km/L
ドライバーズマニュアル（2009年策定）の周知徹底	継続	継続	○	継続
CO ₂ 排出量	前年比1%減	1338.7t-CO ₂	28%減	前年比1%減
環境対応車両の導入（導入比率）	28台/80台	32台/83台	○	32台/83台
事業所・工場の照明LED化推進	全照明の60%	1%/年増 施設全体の46%	△	全照明の60%
エコドライブの推進 （ドライブレコーダー、デジタル タコメーターの導入推進）	維持	維持	○	維持
BEMS（ビル・工場エネルギーマネジ メントシステム）導入検討の開始	FSの実施	未実施	×	FSの実施
資源の有効利用の推進				
リサイクル率の向上 現在のリサイクル率 5年後（基準年平成24年実績）平成29 年度実績で100%を目標とする	95%	89%	○	95%
工場施設メンテナンスの内製化による 長期使用と効率化の推進 （総整備件数中の自社整備件数）	95%	94.3%	○	95%
収集運搬車両のメンテナンス内製化に よる長期使用の推進 （点検整備総数分の自社整備件数）	95%	95.2%	○	95%
生物多様性の確保				
木くずの再資源化の推進（量の拡大） 敷料⇒堆肥化⇒有機減農薬農法の 推進⇒生態系への環境負荷の軽減	前年比3%増	23.8%減	×	前年比3%増
水田・芋畑の管理、協力	5.5 t 収穫	5.0 t 収穫	×	5.5 t 収穫

環境とのかかわり

製造部門の実績

株式会社ウチダは産業廃棄物の処理だけではなく、処理機械の開発・製造・販売・維持管理も行っています。



環境展にて

製造装置の一例

モンスター	スリースター	ユニバーサルクラッシャー
 MONSTAR スイングハンマー破砕機 ダイレクトモータードライブ方式採用 レオシリーズ	 廃プラスチック用破砕機 スリースター simple and powerful three star uchida co., LTD.	 — スイングハンマー式破砕機 — ユニバーサルクラッシャー uchida co., LTD.
用途：木くず、石膏ボード、紙くず、廃畳、硬質プラスチックの破砕 大型大容量処理破砕機。 投入口を特に広く設計。一次破砕機に最適。 特殊構造の投入スロープ床により細かな木くず、石膏片も吸引。 カップリングを介したダイレクトモータードライブ方式を採用。	用途：軟質プラスチック、硬質プラスチック、繊維くず、紙くず、木くずの破砕 軟質、硬質を問わずあらゆるプラスチック製品を剪断破砕。 軟質プラスチック（特にシート系）の処理能力が抜群に向上。 低振動、低騒音。 バリエーション豊かなロストルと固定刃の組み合わせにより、粒度調整が可能。	用途：木くず、硬質プラスチック、石膏ボード、廃畳の破砕 特殊構造の投入ロスロープ床により、細かな木くず、石膏も吸引。 コンパクト。
*いずれも、シンプルな構造の為、頑健。消耗品の交換等保守点検も容易です。		

販売実績

納入先	納入機器
北海道旭川市	モンスター・ユースター・振動ふるい機・風力選別機・バーク用破砕機（振動ふるい付）
埼玉県岩槻市	ユースター・磁選機・ベルトコンベアー・ユースター用モーター
沖縄県具志川市	モンスター
愛媛県西条市	モンスター・磁選機・ベルトコンベアー
新潟県新潟市	圧縮梱包機
静岡県浜松市	振動ふるい機

環境とのかかわり

製造装置設置例

「モンスタージュニア」と「ベルトコンベアー」「磁選機」を設置。塩ビ管・継手を破碎して塩ビペレット（チップ）を製造。



「モンスター」と「ユースター」を設置。オガコを製造。



装置のメンテナンス例とパーツ保管

溶接



破碎機の刃の再生もりつけ



破碎機の刃



破碎機の部品

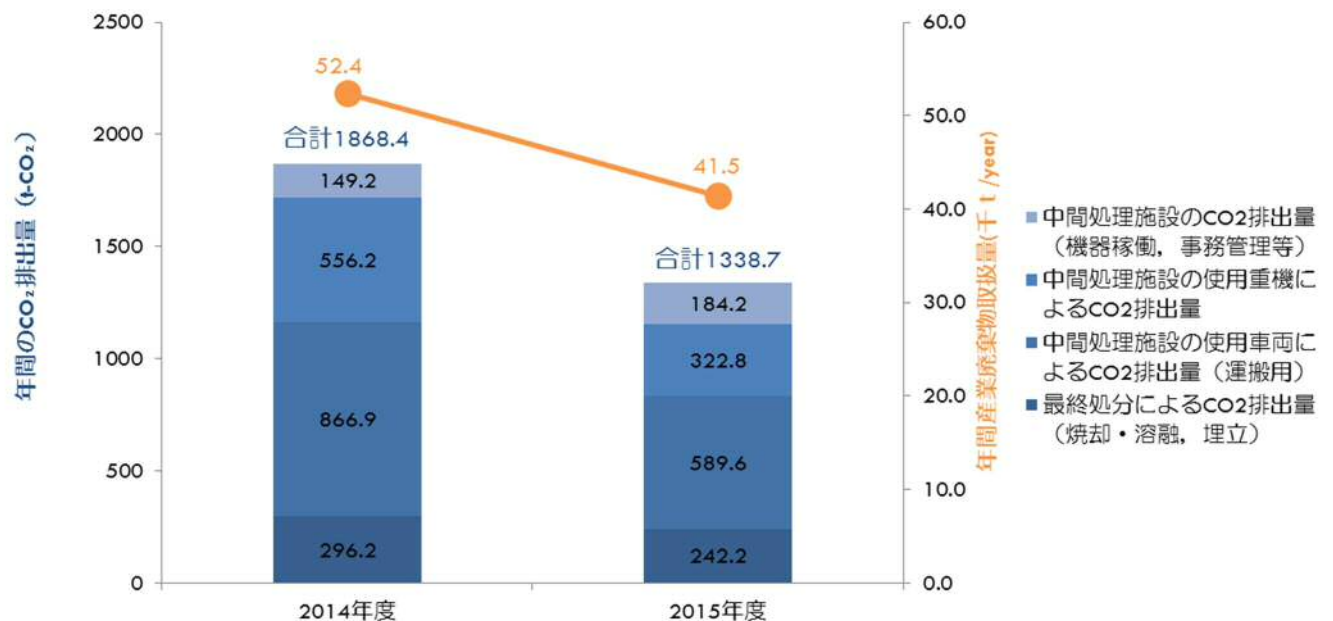
（オーバーサイズをリターンさせるために使用）

環境とのかかわり

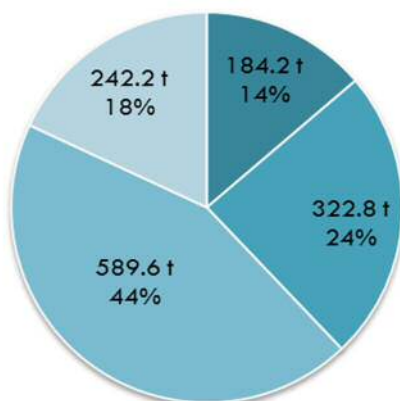
CO₂排出量（平成26年度・平成27年度）

項目		2014年度 （平成26年度）	2015年度 （平成27年度）
産業廃棄物取扱量（t）		52,425	41,524
CO ₂ 排出量 （t-CO ₂ ）	中間処理施設の年間総CO ₂ 排出量 （機器稼働，事務管理等）	149.2	184.2
	中間処理施設の使用重機によるCO ₂ 排出量	556.2	322.8
	中間処理施設の使用車両によるCO ₂ 排出量 （運搬用） 注）	866.9	589.6
	最終処分によるCO ₂ 排出量 （焼却・溶融，埋立）	296.2	242.2
	合 計	1,868.4	1,338.7

注）産業廃棄物輸送における運搬車両全体のCO₂排出量である。



年間CO₂排出量内訳
2015年度



- 中間処理施設のCO₂排出量
（機器稼働，事務管理等）
- 中間処理施設の使用重機によるCO₂排出量
- 中間処理施設の使用車両によるCO₂排出量
（運搬用）
- 最終処分によるCO₂排出量
（焼却・溶融，埋立）

環境とのかかわり

CO₂排出量の明細

算出：明治大学理工学部 建築材料研究室

使用電力によるCO₂排出量

$$\text{CO}_2\text{排出量}[\text{t-CO}_2] = \text{電力消費量}[\text{kWh}] \times \text{使用電力会社排出係数} [\text{t-CO}_2/\text{kWh}]$$

2014の東京電力排出係数 0.521×10^{-6}
2015の東京電力排出係数 0.496×10^{-6}

- 太陽光発電による電力売却分は合計に対し減算



年間電力消費量は増大。上尾工場の電力消費量が増加しているのは、平成27年発電機電源を従来の低圧電源から高圧電源に切り替えたことによると考えられる。年間電力消費量増大に伴いCO₂排出量も同様の傾向をしている。

項目	2014年度		2015年度	
	エネルギー消費量 (kWh/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	エネルギー消費量 (kWh/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
上尾	273,366	142.4	358,578	177.9
ふじみ野	14,084	7.3	13,719	6.8
太陽光発電(売却)	-1,112	-0.6	-934	-0.5
合計	286,338	149.2	371,363	184.2

使用重機によるCO₂排出量

$$\text{CO}_2\text{排出量}[\text{t-CO}_2] = \text{燃料消費量}[\text{kl}] \times \text{使用燃料排出量算定係数}[\text{t-CO}_2/\text{kl}]$$



- VP燃料、fuLは灯油を基剤とし添加剤を加えた燃料のため、排出量算定係数は灯油の係数を使用

燃料消費量が減少しているのに伴いCO₂排出量も減少。
VP燃料・fuL燃料の使用量およびCO₂排出量が減少。

項目	排出量算定係数 (t-CO ₂ /kl)	2014年度		2015年度	
		エネルギー消費量 (kl/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	エネルギー消費量 (kl/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
ガソリン	2.32	4.5	10.3	5.7	13.1
軽油	2.58	78.0	201.2	76.0	196.0
その他 (VP燃料)	2.49	126.2	314.2	-	-
その他 (fuL燃料)	2.49	12.2	30.5	45.6	113.6
合計		220.8	556.2	127.3	322.8

運搬車両によるCO₂排出量（燃料法）

$$\text{CO}_2\text{排出量}[\text{t-CO}_2] = \text{燃料消費量}[\text{kl}] \times \text{使用燃料排出量算定係数}[\text{t-CO}_2/\text{kl}]$$

- 中間処理施設への搬入、中間処理施設からの搬出の合計



燃料消費量が減少しているのに伴いCO₂排出量も減少。

項目	排出量算定係数 (t-CO ₂ /kl)	2014年度		2015年度	
		エネルギー消費量 (kl/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	エネルギー消費量 (kl/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
ガソリン	2.32	9.9	22.9	5.1	11.8
軽油	2.58	317.1	818.0	216.0	557.2
CNG・LPガス	3.00	8.6	25.9	6.8	20.5
合計		335.6	866.9	227.9	589.6

最終処分によるCO₂排出量

$$\text{CO}_2\text{排出量}[\text{t-CO}_2] = \text{廃棄物持ち込み量}[\text{t}] \times \text{廃棄物処理原単位}[\text{t-CO}_2/\text{t}]$$

- 中間処理後の焼却、埋立処分（委託処理）について算出
- 焼却・溶融量は2014年はOt

廃棄物持込量はかなり減少しているのに対し、CO₂排出量の減少量は小さいが、これは2015年度において溶融処理におけるCO₂排出量を含めていることによる。

項目	廃棄物処理原単位 (t-CO ₂ /t)	2014年度		2015年度	
		廃棄物持ち込み量 (t/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	廃棄物持ち込み量 (t/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
埋立処分(委託処理)	0.0379	7,814.8	296.2	4,595.6	174.2
焼却・溶融(委託処理)	0.2832	-	-	240.1	68.0
合計		7,814.8	296.2	4835.7	242.2

17

環境とのかかわり

各種試験結果報告

試験・分析の内容	試験実施日	試験・分析の結果
混合廃棄物（中間処理破砕物）の放射性セシウム濃度試験	平成27年8月20日 平成27年12月22日	放射性ヨウ素 I-131 不検出 放射性セシウムCs-134 不検出 放射性セシウムCs-137 不検出
混合廃棄物（中間処理破砕物）の熱しゃく減量計量	平成27年9月18日	1.79%
おがこの肥料分析	平成19年3月2日	クロム、カドミウム、鉛、ヒ素、水銀、ニッケル いずれも不検出
おがこの食品衛生検査	平成28年3月18日	黄色ブドウ球菌 陰性 E.Coli 30未満/100g（不検出） サルモネラ 陰性 腸管出血性大腸菌O-157 陰性

混合廃棄物（中間処理破砕物）の放射性セシウム濃度試験

試験結果報告書
第 1009-001-01 号 (1/1)
平成 27 年 08 月 20 日

株式会社ウチダ 様

試験品名: 混合廃棄物(中間処理破砕物)

試験方法: 一般社団法人 埼玉県環境検査研究センター
測定方法: 平成27年08月20日 測定場所: 埼玉県環境検査研究センター
測定結果: 放射性ヨウ素 I-131 不検出
放射性セシウム Cs-134 不検出
放射性セシウム Cs-137 不検出

試験結果: 放射性ヨウ素 I-131 不検出
放射性セシウム Cs-134 不検出
放射性セシウム Cs-137 不検出

備考: 測定日時: 平成27年08月20日 11時11分
測定場所: 埼玉県環境検査研究センター
測定方法: 一般社団法人 埼玉県環境検査研究センター
測定結果: 放射性ヨウ素 I-131 不検出
放射性セシウム Cs-134 不検出
放射性セシウム Cs-137 不検出

混合廃棄物（中間処理破砕物）の熱しゃく減量計量

試験結果報告書
第 1009-001-02 号 (1/1)
平成 27 年 09 月 18 日

株式会社ウチダ 様

試験品名: 混合廃棄物(中間処理破砕物)

試験方法: 一般社団法人 埼玉県環境検査研究センター
測定方法: 平成27年09月18日 測定場所: 埼玉県環境検査研究センター
測定結果: 熱しゃく減量 1.79%

試験結果: 熱しゃく減量 1.79%

備考: 測定日時: 平成27年09月18日 測定場所: 埼玉県環境検査研究センター
測定方法: 一般社団法人 埼玉県環境検査研究センター
測定結果: 熱しゃく減量 1.79%

おがこの肥料分析

分析報告書
第 1009-001-03 号 (1/1)
平成 19 年 03 月 02 日

株式会社ウチダ 様

試験品名: おがこ

試験方法: 一般社団法人 埼玉県環境検査研究センター
測定方法: 平成19年03月02日 測定場所: 埼玉県環境検査研究センター
測定結果: クロム、カドミウム、鉛、ヒ素、水銀、ニッケル いずれも不検出

試験結果: クロム、カドミウム、鉛、ヒ素、水銀、ニッケル いずれも不検出

備考: 測定日時: 平成19年03月02日 測定場所: 埼玉県環境検査研究センター
測定方法: 一般社団法人 埼玉県環境検査研究センター
測定結果: クロム、カドミウム、鉛、ヒ素、水銀、ニッケル いずれも不検出

試験結果報告書

第 1012-004-01 号 (1/1)
平成 27 年 12 月 22 日

株式会社ウチダ 様

試験品名: 混合廃棄物(中間処理破砕物)

試験方法: 一般社団法人 埼玉県環境検査研究センター
測定方法: 平成27年12月22日 測定場所: 埼玉県環境検査研究センター
測定結果: 放射性ヨウ素 I-131 不検出
放射性セシウム Cs-134 不検出
放射性セシウム Cs-137 不検出

試験結果: 放射性ヨウ素 I-131 不検出
放射性セシウム Cs-134 不検出
放射性セシウム Cs-137 不検出

備考: 測定日時: 平成27年12月22日 測定場所: 埼玉県環境検査研究センター
測定方法: 一般社団法人 埼玉県環境検査研究センター
測定結果: 放射性ヨウ素 I-131 不検出
放射性セシウム Cs-134 不検出
放射性セシウム Cs-137 不検出

おがこの食品衛生検査

試験検査成績書
第 102228-01 号
平成28年 3月28日

株式会社ウチダ 上尾工場 様

試験品名: おがこ

試験方法: 一般社団法人 埼玉県環境検査研究センター
測定方法: 平成28年03月28日 測定場所: 埼玉県環境検査研究センター
測定結果: 黄色ブドウ球菌 陰性
E.Coli 30未満/100g(不検出)
サルモネラ 陰性
腸管出血性大腸菌O-157 陰性

試験結果: 黄色ブドウ球菌 陰性
E.Coli 30未満/100g(不検出)
サルモネラ 陰性
腸管出血性大腸菌O-157 陰性

備考: 測定日時: 平成28年03月28日 測定場所: 埼玉県環境検査研究センター
測定方法: 一般社団法人 埼玉県環境検査研究センター
測定結果: 黄色ブドウ球菌 陰性
E.Coli 30未満/100g(不検出)
サルモネラ 陰性
腸管出血性大腸菌O-157 陰性

分析報告書

第 1009-001-04 号 (1/1)
平成 28 年 03 月 28 日

株式会社ウチダ 様

試験品名: おがこ

試験方法: 一般社団法人 埼玉県環境検査研究センター
測定方法: 平成28年03月28日 測定場所: 埼玉県環境検査研究センター
測定結果: クロム、カドミウム、鉛、ヒ素、水銀、ニッケル いずれも不検出

試験結果: クロム、カドミウム、鉛、ヒ素、水銀、ニッケル いずれも不検出

備考: 測定日時: 平成28年03月28日 測定場所: 埼玉県環境検査研究センター
測定方法: 一般社団法人 埼玉県環境検査研究センター
測定結果: クロム、カドミウム、鉛、ヒ素、水銀、ニッケル いずれも不検出

地域・社会とのかかわり

地域農業支援



さつまいもの収穫作業



収穫されたさつまいも

地域清掃活動

平成27年4月18日、19日に開催された「アースデイ東京2015」に、（一社）東京都産業廃棄物協会の一員として、ごみゼロステーションの運営、イベント会場の周辺の清掃活動に参加しました。



熊本地震被災地に義援金を寄付しました

平成28年5月14日、一般社団法人埼玉県環境産業振興協会を經由して寄付させていただきました。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

お客様とのかかわり

工場見学会・お客様向け勉強会

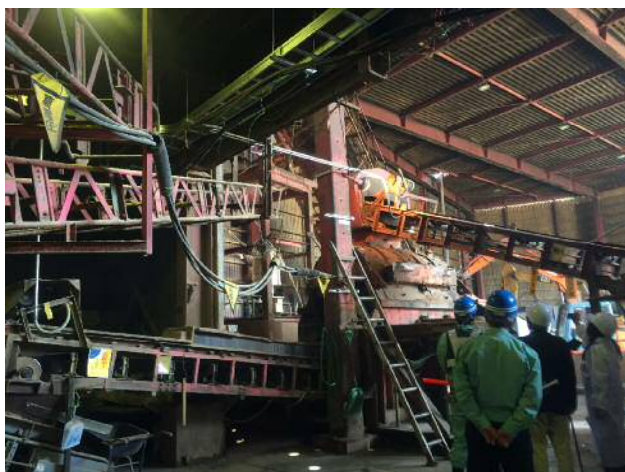
株式会社ウチダでは、お客様である廃棄物の排出事業者の皆様をはじめ、広く一般に、随時処理施設の見学を受け入れています。

排出事業者の皆様には、現場で分別された廃棄物が処理される様子や、自社開発のリサイクル機器の性能、工場での環境配慮の実際をご確認頂いております。

また、ご要望に応じて、現場監督や作業員への現場分別指導や、排出事業者として順守しなければならない法規制等の内容についての勉強会を行っています。



平成27年4月18日実施 排出事業者による見学の様子



平成27年5月14日実施 排出事業者による見学の様子



平成27年5月19日実施
排出事業者による見学の様子



平成27年12月実施
現場分別指導

お客様とのかかわり

排出事業者様の労務安全大会において、 講話させていただきました。

平成27年6月18日、排出事業者である岡建工事様の安全大会において、取締役社長 内田 千恵子が講話をさせていただきました。



講話概要

まず始めに、産廃を取り巻く環境が年々厳しくなっています。

最終処分場の残容量問題に始まり、作業員の高齢化、人員確保の厳しさ等々、これからの産廃においても現場分別の徹底が企業様には求められて来る事と思われます。

そこで、分別としての講和になりますが、大原則とし、分ければ資源・混ぜればゴミ！
分けて頂く事が、現場現場で難しい状況であります。

分別は品目毎にトンパックに入れて頂くのが理想です。

混合廃棄物を、どうすれば良いかを・・・

混合廃棄物には2種類（厳密には3種類の）品目があります。

- ・安定型混合廃棄物
- ・管理型を含む混合廃棄物
- ・管理型混合廃棄物

です。

安定型とは、廃プラスチック類・ゴムくず・金属くず・ガラス陶磁器くず・がれき類
頭文字を取って、は・ご・きん・が・が・と覚えてください。

管理型品目は、木くず・紙くず・繊維くず・石膏ボードになります。

この品目を安定型に入れてしまいますと管理型を含むもしくは管理型混合廃棄物になってしまいます。

皆様に覚えて頂きたいのは、木くず・紙くず・繊維くず・石膏ボード！これらを分別して戴き、安定型に入れない！このことだけでも、廃棄物の処理コストは抑えられます。

社員とのつながり

社内勉強会

株式会社ウチダでは、産業廃棄物処理業をはじめとする各分野で、社員ひとりひとりがプロフェッショナルとして通用する人材に育つよう、資格取得の奨励はもとより、定期的に環境関連法令等の社内勉強会を開催したり、外部講習会へ積極的に参加させるなどして、社員教育、人材育成に力を入れています。



<平成27年度社内勉強会実施状況>

日 付	内 容
平成27年4月13日	⌘ 建設工事から生ずる廃棄物の適正処理について（通知）から建設汚泥・安定型産業廃棄物・特別管理産業廃棄物・建設混合廃棄物・木くず・建設現場、現場事務所等から排出される廃棄物の取扱い ⌘ 京都市建設工事から発生する産業廃棄物の適正処理の徹底について ⌘ ニチハの窯業系サイディングについて ⌘ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律における廃棄物の定義 ⌘ 産業廃棄物の種類と具体的な例 ⌘ 専ら物について
平成27年5月30日	⌘ 空家等対策の推進に関する特別措置法の概要 ⌘ 解体工事に伴う塩化ビニル管継手の排出実態調査研究について
平成27年7月18日	⌘ 建設現場 現場分別事例 ⌘ 中間処理施設場内安全看板の事例 ⌘ 建設工事から生ずる廃棄物の適正処理について（通知）から建設汚泥の取扱い
平成27年8月29日	⌘ 産業廃棄物の現状と行政対応について ➢ 建設リサイクル推進計画2014 平成26年9月 ➢ 排出事業者 委託処理 マニフェストによる管理 ➢ グリーン契約(環境配慮契約)法 基本方針における「産業廃棄物の処理に係る契約」追加について ➢ 分別について
平成27年11月21日	⌘ 最近の行政処分等 ⌘ 東日本大震災被災地視察写真
平成27年12月26日	⌘ 東日本大震災被災地視察写真 ⌘ 解体工事の適正な施工確保に関する検討会とりまとめ（抜粋） 平成27年9月 ⌘ 建設業法改正による解体工事業の業許可について ⌘ 排出事業者（元請）による自社運搬の法的根拠について ⌘ 二者契約の法的根拠について
平成28年1月23日 平成28年3月26日	⌘ 建設廃棄物の適正処理について ➢ 建設業と環境問題 ➢ 廃棄物の種類 ➢ 排出事業者

<平成27年度外部講習会受講状況>

修了日	講習会の名称	実施者	了証番号・人数
平成27年6月23日	平成27年度第1回安全衛生研修会	一般社団法人東京都産業廃棄物協会	27010623021 27010623022 2名

社員とのつながり

安全衛生の取り組み

株式会社ウチダでは、日々安全を念頭におきながら企業活動を行っていくため、安全衛生教育や労働安全衛生についての活動を行っています。

平成27年12月21日実施 防災訓練



場内安全標識



事故防止のため重機と人の動線を区画するパイロンとバーの設置、RL2マスク装着



作業手順書

産業廃棄物処分作業手順書



KY活動実施の様子



安全帯の使用



第三者意見

1. 建設廃棄物の変化について

近年、建築工事の現場では廃棄物の分別に関する取り組みが進んできています。このこと自体は環境負荷低減に大きく貢献しますが、産業廃棄物処理業者にとってはむしろ受け入れ廃棄物の減少につながりかねない由々しき事態であると言えます。株式会社ウチダの廃棄物受け入れ量がここ数年減少傾向にあるのも、このような背景が一因をなしていると考えられます。この状況下で受け入れ廃棄物を増加させるための方法としては、丁寧な営業活動に加えて

- ① 適切な情報公開がなされていること
- ② リサイクル率が極めて高いこと
- ③ 確実なリサイクル先を確保していること

という、適正な中間処理業者としての資質を磨き込む必要があります。株式会社ウチダをこれらの観点から確認すると、いずれのポイントも十分に排出事業者をはじめとする社会の要請に応えていることがわかります。

特に木くずと塩ビ管のリサイクルはその典型例で、自社製造の破砕機で破砕した木くずが牧場において敷料として使用された後に農作物の肥料となり自然に帰り、塩ビ管も同様に自社製造の破砕機で破砕後、再生塩ビ管に加工され市場に供給されるという、いずれもきれいなリサイクルループを描いています。

この企業姿勢は同業他社だけでなく、多くの製造業にとっても学ぶ価値のあるものだと思います。

2. 株式会社ウチダに期待すること

上述のように、ウチダにおいても廃棄物の受け入れ量が前年に比べ約2割減少しているところが気になります。企業の持続性を担保するためには受注量の増大は必達要件でもあります。受注量が増えてこそリサイクルの質の向上を望むことが可能となり、ひいては原単位当たりのCO2排出量削減も可能となります。

再資源化率向上のチャレンジに加え、受注増へ向けた積極的な営業施策の立案と実施をとおり、今まで以上に御社の理想実現に向けた積極的な活動にまい進することを期待いたします。

早稲田大学 環境総合研究センター
招聘研究員 上川路 宏

ご意見をいただいて

東京オリンピックに向け、首都圏のインフラ整備・都市開発が進む中、戸建て住宅においては、新築着工物件が伸び悩み、近年は住宅リフォームが増加傾向にあります。

そのような状況下で、受注量を増やし、再資源化率を向上する為に、リフォーム・改修工事を積極的に受け入れ、管理型混合廃棄物を今まで以上に細かく選別できるよう新たなトロンメルを設置致しました。

また、インフラ整備に伴い、弊社が得意とする塩ビ管の受入量の増加が見込まれます。

お客様だけでなく、現場に携わっている全ての方に、ウチダと仕事がしたい！と思って頂けるよう、社員一同、努力し邁進していく所存です。

株式会社ウチダ CSR実行委員長 内田 朋美



営業本部
(ふじみ野営業所)

〒356-0052 埼玉県ふじみ野市苗間1-6-10
TEL：049-293-1128 FAX：049-293-1126

ECO.AMUSEMENT PARK IN
AGEO (上尾工場)

〒362-0066 埼玉県上尾市領家字中井1119-1
TEL：048-782-0201 FAX：048-782-0204

E-mail: e-eco-uchida@bh.wakwak.com